

開発建設部空港整備課



一方、航空需要の増加により、那覇空港では、ピーク時の発着回数が処理容量に達し、航空機の慢性的な遅延が発生し、また、滑走路1本で運用されていたことから、滑走路上で航空機トラブルなどによる滑走路閉鎖時の代替性がないことや滑走路の維持補修時間が十分に確保できないことなどの問題を抱えていました。

2 那霸空港滑走路増設事業

平成 26 年 1 月の工事着手後、工期内の完了に向けて鋭意工事を実施してきた結果、平成 30 年 3 月には全体延長約 8.5km の護岸が概成、令和元年 8 月には全体土量約 1,000 万 m³ の埋立が完了し、令和元年 12 月に、南北の進入灯橋梁、滑走路の舗装工事が完了しました。

令和2年1月には大阪航空局にて実施されていた飛行検査についても終了し、地元からも強く望まれている第2滑走路が令和2年3月26日に供用開始しました。

3 那覇空港第2滑走路供用開始

令和2年3月26日に那覇空港第2滑走路の供用が開始され、午前8時6分に初便としてスカイマーク549便（6：05 名古屋 / 中部）が着陸しました。



供用開始初便を放水アーチで歓迎

4 那覇空港第二滑走路供用セレモニー

令和2年3月29日に国土交通省大阪航空局、内閣府沖縄総合事務局の主催による「那覇空港第二滑走路供用セレモニー」を開催しました。

セレモニーには、菅義偉内閣官房長官、赤羽一嘉国土交通大臣、衛藤晟一内閣府特命担当大臣沖縄及び北方担当、玉城デニー沖縄県知事をはじめ約100名が参加され第2滑走路の完成を祝いました。



来賓によるテープカットの様子

5 おわりに

第2滑走路の供用は、現在好調なインバウンド需要の拡大やLCC路線の拡充などをさらに推し進めていく非常に重要な役割を担うものであり、東アジアのゲートウェイとして、また、「強く自立した沖縄」の実現に向けた起爆剤の役割を果たすことで、沖縄県を日本経済のフロントランナーに導くとともに、日本経済の発展にも大きく寄与するものと期待しています。